

たのしみなきゆうしょく

東広島市立龍王小学校

第1学年 井林 暖真

たのしみなきうしよく
ねんいばがしはるま
ぼくはねんせいになつてた
のしみにしていたことがたくさん
ありました。そのなかでもとくに
たのしみにしていたのは、きゅう
しよくです。しゅうかんのながか
でももくようびのきゅうしよくが
たのしみです。なぜかというところ、
こんだてがばんになつているが
らです。ぼくはばんがだいすき
です。
ぼくは、セガつ五かもくようび
のきゅうしよくきたのしみにして
いました。なんとこのひのこんだ

てが、せるふどっくだからです。
せるふどっくは、ほそながいはん
にますだあどとちいずとかさいと
けち^カっ^ッピきはさんでいるおみせ
においてあるようなぱんだとおも
いきました。おもいうかべただけで
にっごりしてしまいました。ほく
は、きょううしつにあるはいぜんひ
ょうをみたり、はいぜんしつのま
えのはいぜんひょうをみたりしま
した。
いよいよせるふどっくのひです。
ほくはうれしくてせんせいにな
っ^ッきょううはせるふどっくだよ
しいいました。

「え、ほんとう。」

とせんせいがいこので、

「みてみて。」

といていていっしよはいぜんひよ

うをみました。ぼくのきょうしつ

のとがりは、はいぜんです。

い^ちぎ^ようち^ちうでもはいぜんし

つのおとがきになりました。

きあ、き^ちうし^よくのいかんで

す。ぼくは、はんからはみだした

う^いんな^なおの^のま^まきをがぶりしたべ

ました。おいしくて、おいしくて

ばくばくとたべました。ぼくのま

わりをみるとう^う「んかおをその

ままたへ^へているひともしました。

ぼくは、ぜんぜんはさんだほうが
おいしいのに、なじとおもいました。
のこしていただいたさいごのひとくちは、
ゆっくりあじわって、ちよつとずつ
たべました。
しょうが、このとき、うしよく
は、ほんとうにおいしくて、すきで
す。これが、その、さすだぶで、け
んこうになりたいです。

指導者の言葉

この作品は、国語科「こんなことしたよ」の学習で、家族に知らせたいことを様々な体験の中から選び、様子が伝わるよう順序に気を付けて書いた作文です。

この学習では、書きたい内容をたくさん思い浮かべ、その中から特に伝えたいことを選び、さらにその時の様子や考えたこと、思ったことを詳しく書くことに留意して指導しました。

本児童は、小学校入学をととても楽しみにしていました。入学して3か月がたち、どの体験も初めてのことで楽しいことがたくさんありました。その中でも特に給食が1番の楽しみとなりました。作文の中では、給食のおいしさだけでなく、その献立を目の前にした時の心の様子がつぎつぎと言葉になってあふれ出しています。

大好きな給食への思いやおいしそうに食べている姿が伝わる作品になりました。